

内視鏡検査時の鎮静剤使用の説明書/同意書

私は、患者_____様に対して、内視鏡検査時における鎮静剤投与の処置に関して、その利点、短所、合併症や危険性などについて次のように説明いたしました。

鎮静剤投与は、内視鏡検査に必ずしも必要なものではなく、一般的に行わなくても検査は可能ですが、次のような利点があり、より苦痛の少ない検査を受けることができます。

- ・検査に対する不安感や緊張を和らげる。
- ・喉の違和感や痛み、オエツとなる嘔吐反射を抑える。

<鎮静剤使用の短所>

- ・点滴から注射として投与するため、点滴をしなくてはならない。
- ・検査後、少なくとも 30 分以上休憩してから帰宅する必要がある。
- ・検査終了後も眠気が残る場合があり、当日は乗り物の運転はできない。
- ・下記のような合併症による危険性を伴うことがある

呼吸抑制（呼吸回数が減る）、循環抑制（血圧や脈拍数が低下する）、眠気やふらつき、転倒、アナフィラキシーショック（重いアレルギー反応で意識低下や血圧低下などが生じる）。

<鎮静剤使用の方法>

安全確保のために、まずブドウ糖の点滴を腕から開始し、喉にスプレーの局所麻酔を実施後にマウスピースを啜っていただきます。検査開始の直前に点滴の管から鎮静剤の注射を投与します。患者さんの体格や年齢を考慮した適切な投与量で使用する限り安全性は高いものですが、薬の効果は個人差があるため検査中は、呼吸心拍監視モニターで慎重に血圧や呼吸状態を観察・記録し、必要時は酸素投与や点滴量を増やすなどの対応を行います。特にご高齢の方（一般に 80 歳以上）や、重篤な疾患で治療中や血液透析中の方などは通院検査では使用できない場合もありますのでご了承ください。

検査後は拮抗剤（鎮静剤の効果を打ち消す薬）の注射を投与し、少なくとも 30 分程度は観察室のベッドでお休みいただいてから帰宅になります。自宅が遠方の方や 70 歳以上の方では、安全のために帰宅時に付き添いの方の同伴や、もしくは病院からタクシーを使用するなどをお願いいたします。また当日中は、乗り物の運転や精密な作業は避けてください。

年 月 日

紹介元医療機関 医師・看護師・その他、説明者

印

私は、上記の説明を受け、鎮静剤投与の利点や短所、合併症などの危険性、鎮静剤の使用方法について理解し、その上で鎮静剤の実施を希望します。また検査実施中に緊急処置を行う必要が生じた場合には、適宜実施されることについてもあらかじめ同意します。

年 月 日

患者氏名

印

氏名

印

親族または代理人(続柄:

)